

授業科目	こどものためのピアノⅡ (CD クラス)				単位	1		
履 修	選択	関連資格	保育士		ナンバリング	CH31504J		
開講年次	1	開講時期	後期	該当DP	DP5-2			
担当教員	山路 麻佳、本多 一江、吉富 淳子、井原 花絵、西村 里美、山本 朝子							
授業概要	テキストに掲載されている曲目を始め、保育の現場でよく用いられている曲について、弾き歌いにて演奏できる技能を習得出来るよう実践的に学ぶ。また、1年生前期科目「こどものためのピアノⅠ」の単位を修得できなかった学生については、これまでに到達した課題曲の続きからレッスンを開始し、当科目において「こどものためのピアノⅠ」の履修曲の確実な習得を目指す。							
学生が達成すべき行動目標	1. 子どもの歌の弾き歌いをコード奏を用いて演奏することができる。 2. 正しく楽譜を理解し、弾き歌いにて演奏する力を身につけることができる。 3. 適切なテンポで歌詞の内容や楽譜に記載されている強弱記号・発想記号をもとに、保育現場で活用することを前提とした表現力豊かな演奏をすることができる。							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	0	50	0	50	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)								
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)				50		50	100	
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
保育現場で必要となる子どもの歌を、適切なテンポで歌詞の内容や楽譜に記載されている強弱記号・発想記号をもとに、保育現場で活用することを前提とした表現力豊かな演奏をすることができる。 コード奏法を用い、曲にあったアレンジを加えながら弾き歌いにて演奏することができる。				正しく楽譜を理解し、保育の現場で必要となる子ども歌を、適切なテンポで楽譜通りに弾き歌いにて演奏することができる。 コード奏法を用い、弾き歌いにて演奏することができる。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法	学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)	

1	<p>テーマ:オリエンテーション 授業概要について説明する テーマ:各自の進度に合わせた個別レッスン1 弾き歌い「手をたたきましょう」「とんぼのめがね」 コード伴奏による弾き歌い ハ長調「大きなくりの木の 下で」</p>	各自の進度に合わせて個別レッスンを行う	前期終了時の自らの履修状況を踏まえ、担当教員から指定される課題曲の演奏について予習・復習を行う。楽譜上の記号・用語については不明なものは事前に調べておく。	90
2	<p>テーマ:各自の進度に合わせた個別レッスン2 弾き歌い「どんぐりころころ」「タやけこやけ」 コード伴奏による弾き歌い ハ長調「たきび」</p>	各自の進度に合わせて個別レッスンを行う	自らの履修状況を踏まえ、担当教員から指定される課題曲の演奏について予習・復習を行う。楽譜上の記号・用語については不明なものは事前に調べておく。	90
3	<p>テーマ:各自の進度に合わせた個別レッスン3 弾き歌い「思い出のアルバム」「たなばたさま」 コード伴奏による弾き歌い ヘ長調「ちゅうりっぷ」</p>	各自の進度に合わせて個別レッスンを行う	自らの履修状況を踏まえ、担当教員から指定される課題曲の演奏について予習・復習を行う。楽譜上の記号・用語については不明なものは事前に調べておく。	90
4	<p>テーマ:各自の進度に合わせた個別レッスン4 弾き歌い「お正月」「先生とおともだち」 コード伴奏による弾き歌い ヘ長調「まつぼっくり」</p>	各自の進度に合わせて個別レッスンを行う	自らの履修状況を踏まえ、担当教員から指定される課題曲の演奏について予習・復習を行う。楽譜上の記号・用語については不明なものは事前に調べておく。	90
5	<p>テーマ:各自の進度に合わせた個別レッスン5 弾き歌い「大きなたいこ」「ジングルベル」 コード伴奏による弾き歌い ト長調「水あそび」</p>	各自の進度に合わせて個別レッスンを行う	自らの履修状況を踏まえ、担当教員から指定される課題曲の演奏について予習・復習を行う。楽譜上の記号・用語については不明なものは事前に調べておく。	90
6	<p>テーマ:各自の進度に合わせた個別レッスン6 弾き歌い「雪」「しゃぼんだま」 コード伴奏による弾き歌い ト長調「山の音楽家」</p>	各自の進度に合わせて個別レッスンを行う	自らの履修状況を踏まえ、担当教員から指定される課題曲の演奏について予習・復習を行う。楽譜上の記号・用語については不明なものは事前に調べておく。	90
7	<p>テーマ:各自の進度に合わせた個別レッスン7 弾き歌い「まめまき」「小鳥の歌」 コード伴奏による弾き歌い ニ長調「あくしゅで今日は」</p>	各自の進度に合わせて個別レッスンを行う	自らの履修状況を踏まえ、担当教員から指定される課題曲の演奏について予習・復習を行う。楽譜上の記号・用語については不明なものは事前に調べておく。	90
8	<p>テーマ:各自の進度に合わせた個別レッスン8 弾き歌い「もりのくまさん」「おべんとう」 コード伴奏による弾き歌い ニ長調「めだかのがっこう」</p>	各自の進度に合わせて個別レッスンを行う	自らの履修状況を踏まえ、担当教員から指定される課題曲の演奏について予習・復習を行う。楽譜上の記号・用語については不明なものは事前に調べておく。	90
9	<p>テーマ:各自の進度に合わせた個別レッスン9 弾き歌い「お帰りの歌」「世界中のこどもたちが」 マーチ「ジョンブラウンスボディ」</p>	各自の進度に合わせて個別レッスンを行う	自らの履修状況を踏まえ、担当教員から指定される課題曲の演奏について予習・復習を行う。楽譜上の記号・用語については不明なものは事前に調べておく。	90

10	テーマ:各自の進度に合わせた個別レッスン 10 弾き歌い「かわいいかくれんぼ」「ぞうさん」 マーチ「ブルーセスマーチ」	各自の進度に合わせて個別レッスンを行う	自らの履修状況を踏まえ、担当教員から指定される課題曲の演奏について予習・復習を行う。楽譜上の記号・用語について不明なものは事前に調べておく。	90
11	テーマ:各自の進度に合わせた個別レッスン 11 弾き歌い「一年生になったら」「こいのぼり」 マーチ「ルイヴィルマーチ」	各自の進度に合わせて個別レッスンを行う	自らの履修状況を踏まえ、担当教員から指定される課題曲の演奏について予習・復習を行う。楽譜上の記号・用語について不明なものは事前に調べておく。	90
12	テーマ:各自の進度に合わせた個別レッスン 12 弾き歌い「おつかいありさん」「うれしいひなまつり」 マーチ「ささやく小川」	各自の進度に合わせて個別レッスンを行う	自らの履修状況を踏まえ、担当教員から指定される課題曲の演奏について予習・復習を行う。楽譜上の記号・用語について不明なものは事前に調べておく。	90
13	テーマ:各自の進度に合わせた個別レッスン 13 演奏発表に向けて課題曲のリハーサル	各自の進度に合わせて個別レッスンを行う	各自の課題曲について復習し、次回の演奏実技発表へ向けて準備を行う。	90
14	テーマ:各自の進度に合わせた個別レッスン 14 課題曲の演奏発表と授業のまとめ	指定する課題曲の演奏発表と授業のまとめを行う	当科目の振り返りをもとに自らの課題を明らかにした上で、次の「こどものうたと伴奏法Ⅰ」の履修へ向けた準備を開始する。	90
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				

理解に必要な予備知識や技能	事前にテキストに目を通し、歌詞の内容や記号・用語の意味について理解しておくこと。また、「こどものためのピアノⅠ」で習得したことを踏まえて、弾き歌いの演奏技能を身につけていけるように各自で練習を始めておくこと。
テキスト	教育芸術社『大学ピアノ教本』 朝日出版社『最新・幼児の音楽教育』
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	「マーチ」等のプリント(楽譜)を各自の進度に合わせて適宜配布する。
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	「こどものためのピアノⅠ」と同様に毎日の練習の積み重ねが非常に大切です。毎回の授業の予習・復習として、90分以上の練習に取り組みましょう。 当科目では、ピアノの演奏技能に加えて、各自の進度によっては「歌う」ことの要素が入ってきますので、歌いながらピアノ演奏も安定させることができるように練習を繰り返して下さい。また歌詞で用いられている一つ一つの言葉の意味や季節感などもよく感じ取って、より表情豊かな演奏表現ができるように心がけて下さい。
達成度評価に関するコメント	課題曲の演奏発表の内容等については別途、授業内において伝達する。 日頃の課題へ取り組む姿勢、授業への参加状況も評価に含む。